

地域の関係機関と連携した 取組みについて

北海道森林管理局 常呂川森林ふれあい推進センター
上席自然再生指導官（所長） 南 達彦



背景

森林・林業の役割や森林の癒やし効果、木材利用の意義について森林ボランティア団体を始めとして、地域住民の中に興味を持つ方が多いことから、それらのニーズに応える取組みを地域の関係行政機関・団体等と連携し、展開しています。

内容

●オホーツク総合振興局東部森林室

「木育・森林環境教育意見交換会」

東部森林室と当センターでは、オホーツク地域における木育と森林環境教育の連携した取組みに向けて意見交換を平成27年度から行っています。今年度は、網走中部森林管理署が管轄している北見市端野の緋牛内国有林（通称：「オホーツクの森」）で、フィールドの紹介や活動内容等を情報提供すると共に課題の共有を図っています。

東部森林室では、自主的に活動してくれる森林ボランティア団体がほとんどないことやイベントでの対応の難しい場合などの話があり、こちらからも活発に活動してくれる森林ボランティア団体はあるが自立はなかなか難しい。イベント実施でのメニューのバリエーションを付けるのが大変とかの課題がありました。課題の解消には時間がかかると思いますがお互いの悩みを共有でき今後に向けて有意義な意見交換会となりました。ほかに主なものとして、平成28年から祝日となった「山の日」を記念して、森林散策会を東部森林室・森林管理署・当センターで共催しています。



東部森林室主催戸小森林教室→講師として参加

今年度より互いの行事に職員が参加
交流を深め相互理解と
職員のスキルアップ

今後も、東部森林室との連携を図り、木育と森林環境教育の取組みを推進

気軽に相談できる仲に 森林ふれあいの物品も貸し借り→ 心強い連携先、パートナー

●北海道農政事務所北見地域拠点

「夏休み子ども体験デー」

北海道農政事務所北見地域拠点と網走南部森林管理署・網走中部森林管理署・常呂川森林ふれあい推進センター共催で夏休み期間中に子どもたちに農林水産業への理解を深めてもらうことを目的として実施。庁局の組織の枠を超え、農林水産行政の推進に寄与した取組み。

当センターは近隣署と森林ボランティア団体と連携

木工クラフト・竹とんぼづくり、丸太きり体験等を実施

2日間の来場者が約400人（小学生約250人、保護者等約150人）と大盛況



夏休み子ども体験デーのアンケート調査で農業の催しを併せた全体の中で「木工クラフトづくり」が最も面白い体験1位獲得！

「枝や木片、種を使ってこんな可愛い物が出来るなんて」と、驚きの声を上げながら製作に夢中な人が多く見受けられました。

●ネイパル北見（北海道立青少年体験活動支援施設）

「ネイパル体験デー」

大型連休に開催され、親子連れが大勢訪れるネイパル北見の人気イベント。当センターは森林ボランティア団体と連携し、木工クラフト・竹とんぼづくり等を実施。総じて席に集まる親子たちには好評で、「かわいいフクロウが作れました」、「森の自然にあるもので作れいいものが出来てうれしいです」など笑みがあふれていました。



●網走市農政課・教育委員会



「オホーツクの森 森林散策会」

網走市民を対象とした森林散策会で森の存在を身近に感じ、自然と共に生きることを学ぶ機会を増やすため、網走市農政課・教育委員会が主催で実施。オホーツクの森「古の森」でセンター職員が講師となり植物や動物・土や水等が相互に関わりを持ち森林が成り立っている様子を解説。「森林の営みについて勉強になった」や「普段余り来れないところに来られたのと森の効用もわかり見られて良かった」等の感想がありました。

●遠軽町生田原教育センター

「キッズ・チャレンジクラブ」

遠軽町生田原の子どもたちが体験活動や異世代間の交流を通し、協調性や社会性を養う目的で実施。森の自然の中で、森林探検や川遊び、遊具施設（ブランコ、ターザンロープ、ハンモック等）で森林体験学習。

センターは設置などサポート。今後も内容の工夫と新たな実施メニューを取り入れ連携し実施予定。

（昨年7月の実施の様子）

山登りで疲れたと言っていた子もいましたが、すぐに元気に動き回りながら遊具等で遊んでいました。竹を使った水鉄砲で遊び、びしょ濡れの子も続出。昼食は柳の木の下にブルーシートを敷て食べました。よく話す子もいて、会話が弾みました。



今後の展開

各イベント実施後、振り返りを行っているがその反省結果を次のイベントに活かすようにしていきたい。例えば、木工クラフトなら人数が多い場合は材料を小分けにしておくとか実施メニューが多いときの時間配分の考慮など。また、冬期にイベントの回数が少ないことから、冬期の活用を図ると共に実施メニューの充実を行い、今後においても地域の関係機関の連携や地域からの要請に応え、森林ふれあいの輪を拡げていきたいと思っています。

森林ふれあい業務の活性化

森林への理解と共感の醸成